

編集後記

本号では、『2012年、「京」時代の幕開けとRIST』との巻頭言を関昌弘理事長から頂き、情報科学技術の将来展望と当財団の目指すべき方向を示して頂きました。当財団は、「京」の登録機関として、利用者の選定とその支援に関する業務を開始し、利用者の立場からの利用の促進と展開の使命をはたします。

また、当財団が、日本原子力研究開発機構、高エネルギー加速器研究機構と共に開発・整備に携わってきたPHITSコードに関して、理化学研究所次世代計算科学研究開発プログラム臓器全身スケール研究開発チームの石川顕一氏から、『重粒子線治療のためのPHITSコードを用いた線量計算手法の開発』と題して、スーパーコンピュータ「京」でも動作するような重粒子線治療用の線量計算システムの開発の論文を頂きました。RIST（現在、国際核融合エネルギー研究センター）の徳田伸二氏から『実時間・超高速計算 ― 計算機の新しい利用技術の開拓に向けて ―』と題する論文で実時間・超高速計算を実現する上で求め

られるソフトウェア、ハードウェア両技術の議論を頂きました。また、RISTの手島正吾氏からは『ナノ炭素類に対する電子伝導の研究』と題するスーパーコンピュータの新たなCPUとなりうる素材の研究に関する論文を頂きました。

このように当財団の業務に関連の深い高度情報科学技術分野でのご研究、専門家のご協力を頂き、刊行の運びになりましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、巻頭言で紹介されていますように、計算機はスーパーコンピュータ「京」が世界一を継続しています。電波塔の世界一は、東京スカイツリー、女子サッカーの世界一は、なでしこジャパンです。昨年3月11日の東日本大震災では日本全体が重い暗黒の世界に引きずり込まれたかに思われましたが、このように、世界一という言葉を聞くと気分も高揚し士気も高まります。2012年RISTの活動が国際的になり、世界一の原子力情報のシンクタンクと言われるように努力していきます。（中村）